

中生代の海の大形爬虫類はちゅうるい

ワカヤマソウリュウが属するモササウルスは、海の中で活動していた爬虫類です。モササウルスのような大形の海の爬虫類は、その多くが中生代の白亜紀の末（約6600万年前）に恐竜やアンモナイトなどとともに絶滅してしまいました。

現在、海の中で生活する爬虫類は少なく、ウミガメやウミヘビ、イグアナやワニの一部と数えるほどです。中生代に存在した大形の海の爬虫類である魚竜、首長竜、モササウルスの三種類は、絶滅生物の中でも人気が高い生き物です。

●少し早くに絶滅してしまった魚竜

イクチオサウルスなどが有名な魚竜は、首長竜と同じく中生代の中でも古い時代にあたる三畳紀の初めに出現した海の爬虫類です。見た目は現代のイルカによく似ていますが、後ろ足にヒレを持っています。多くの魚竜は目が大きことから、光の届かない深海まで潜って魚などを食べていたと考えられています。日本では、宮城県で見つかった三畳紀の原始的な魚竜であるウタツサウル

スが有名です。

●首の長い首長竜

首長竜という名前は、よく聞くとお思います。名前の通り、首が長い海の爬虫類です。ブラキオサウルスなど陸上の恐竜である「竜脚類」と混同してしまっている人も多いかもしれません。日本では、エラスモサウルスの仲間であるフタバサウルスが福島県で見つかっています。私たち哺乳類の首の骨の数は7個ですが、首長竜の仲間ではその数が最大で79個にもなります。

●遅れて出現した海の王者 モササウルス

モササウルスは、魚竜が衰退していく白亜紀前期（約9800万年前）に、魚竜と交代するかのように出現しました。当時の海の生態系の頂点に立ち、魚やアンモナイトを食べていました。図は、今回取り上げた三種類の海の爬虫類とワカヤマソウリュウを比べてみたものです。ワカヤマソウリュウはモササウルスの一種ではあるのですが、見た目は魚竜に似ていることが分かります。このように、別の種類同士が似たような姿になることを、収斂進化と呼んでいます。

